

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

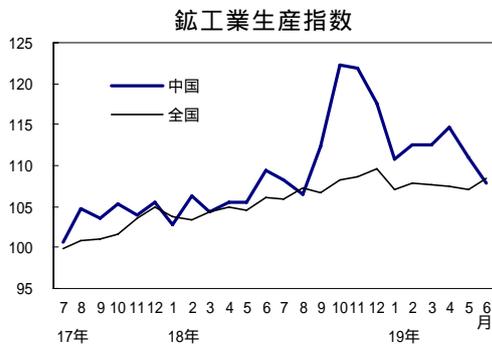
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

化学は、定期修理のため5四半期ぶりに減少しているものの、自動車や家電関連向けが好調だったことから、堅調に推移している。鉄鋼は、6四半期ぶりに減少しているものの、自動車、造船等を中心とした国内外の需要が引き続き好調なことから、堅調に推移している。輸送機械は、完成車の国内向け需要は引き続き伸び悩んでいるものの、国外は、欧州向けを中心に好調なことから、堅調に推移している。一般機械は、自動車向け及び、造船所向けクレーンや石油プラント向け圧縮機が国内外向けに伸びたことなどから、堅調に推移している。電子部品・デバイス、携帯電話向けのアクティブ型液晶素子や半導体集積回路の生産が落ち着いてきたことなどから、ほぼ横ばいとなっている。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成19年6月の中国は速報値。

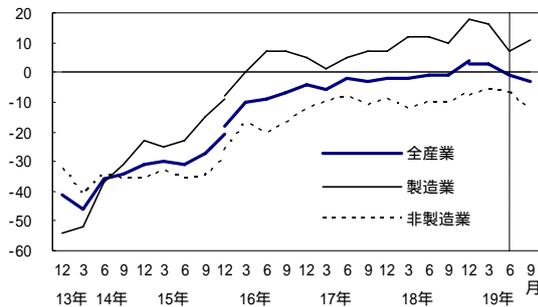
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.6	1.8	2.6	1.5	5.5
鉄鋼	12.1	2.0	4.5	3.8	6.0
輸送機械	12.0	6.6	2.1	1.6	14.1
一般機械	10.4	0.5	0.3	1.7	14.0
電子部品・デバイス	7.6	29.2	0.7	5.5	-
鉱工業	100.0	7.2	0.6	0.9	5.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

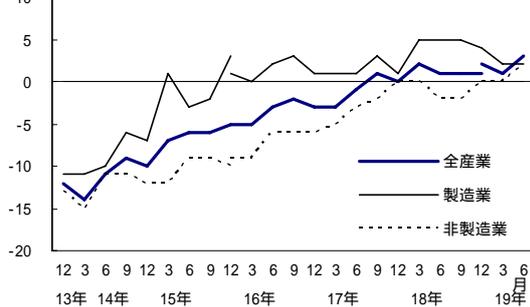
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



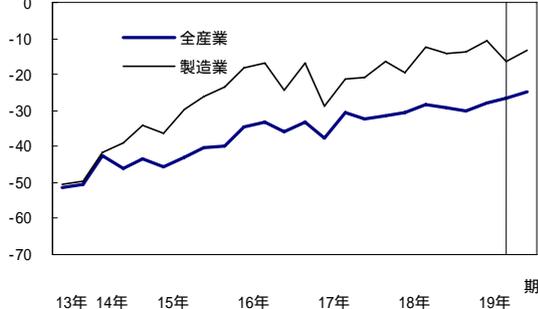
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「投資の必要性を理解していても、業績が不振で検討が進まないユーザーが多い。将来的に導入効果のある施策よりも、現在のコスト削減施策が優先する傾向が強い(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

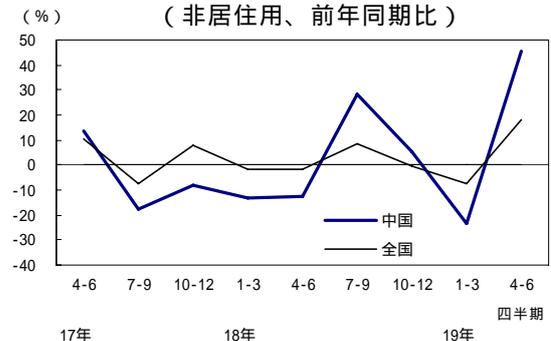
(3) 19年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	3.7(0.4)	7.7(5.8)
製造業	2.5(2.0)	0.9(13.9)
非製造業	14.6(2.1)	17.9(7.3)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

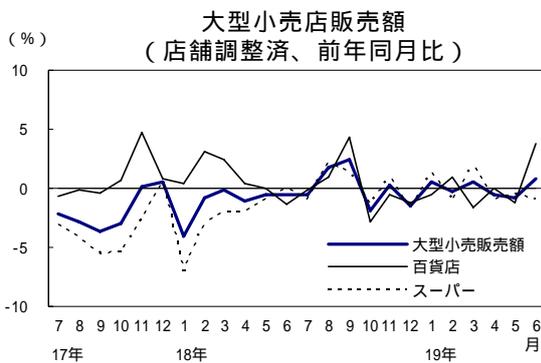
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、天候不順により主力の衣料品が伸びなかったものの、帽子、傘などの身の回り品や、宝飾品などの高額商品の動きがよかったことから、前年とほぼ同水準となった。5月は、「母の日」商戦の効果などにより、帽子、日傘、手袋などの身の回り品の動きはよかったものの、主力の衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。6月は、「中元商戦」や「父の日」などの催事効果に加え、夏の「クリアランスセール」前倒し効果により衣料品などの季節商材が大きく伸びたことから、前年を上回った。

スーパーは、食料品に動きがみられたものの、衣料品が振るわなかったため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

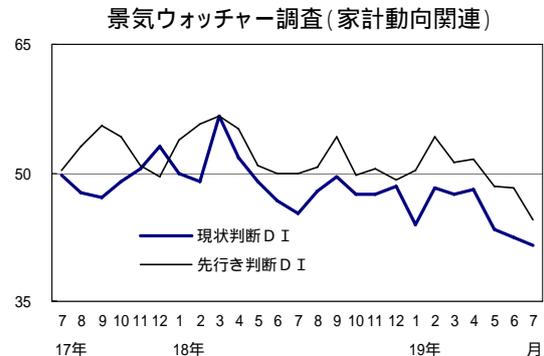
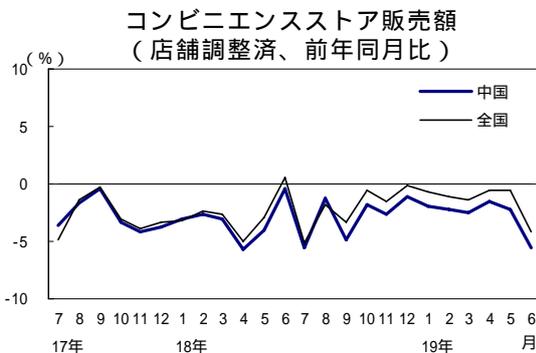
「夏物バーゲンが売上の主要素だが、アパレル関係を中心に売上はかなり厳しい。いつもならスタートが悪くても再値下げ辺りから盛り返すが、今年は全く無かった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	1.0	1.1	0.3	0.2
百貨店	1.4	1.5	0.4	0.9
スーパー	0.8	0.8	0.8	0.8
コンビニ	3.9	1.8	2.2	3.1
景気ウォッチャー	47.6	47.8	46.6	44.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

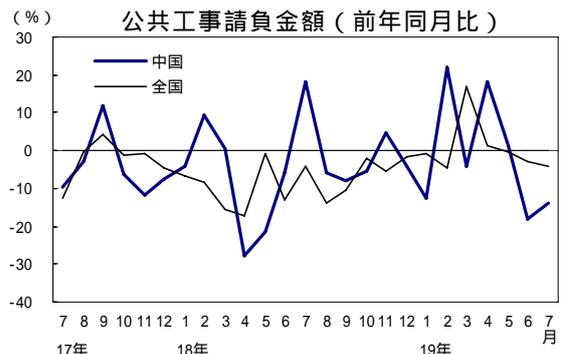
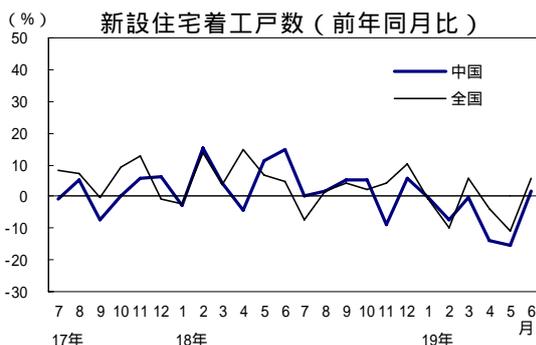
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

給与が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

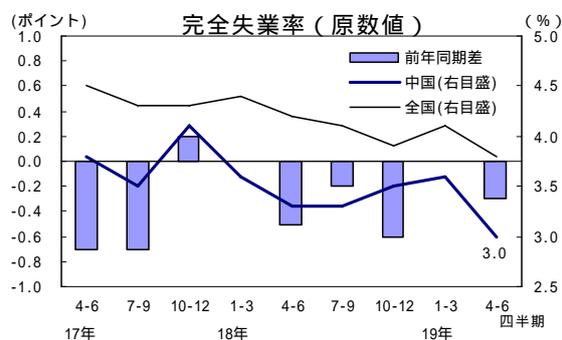
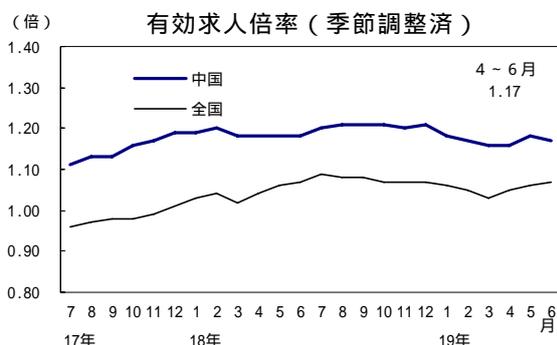


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

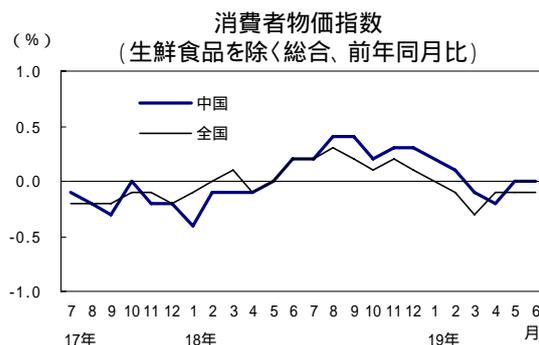
「広告費などの出稿状況をもても、あまり変化がない。各企業共経費節減については厳しくなっているようだ (新聞社 [求人広告])」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	175	156	158	144	59
(前年比)	49.6	2.0	14.1	0.7	5.4
負債総額	1,208	394	611	454	195
(前年比)	185.2	37.1	20.8	8.8	43.4



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ボーナスが出たとか、良かったとかいう話が1つも聞こえてこない (タクシー運転手)

<先行き>

・夏休みの宿泊の予約も好調で、満室の日数の増え具合が前年比で早い (都市型ホテル)

景気ウォッチャー調査 (合計)

